

第1回各部会、青年委員会の主な意見

富山県総合計画審議会活力部会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年1月24日（火）10:00～12:00
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員11名、専門委員12名 計23名
- 4 主な意見

（1）グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保

<第4次産業革命対応、成長産業・バイオ・ものづくり等>

- IoTなどの考え方がここ数年で急速に進んでいるが、中堅・中小企業にその考えを浸透させる意味からも、県の「IoT活用研究会」等の取組みを単年度ではなく継続して進めること。
- 第4次産業革命への対応について、中小企業にどのように普及させるかが課題。業種・地域単位で束になって対応する必要がある、そのためにもAIやロボットなどの先端技術導入を支援するための産学官金あげての仕組み（導入支援センター）が必要。
- 医薬・バイオは本県の基幹産業としてこの5年間で大きく成長しており、施策を独立させたことは、今後集中して進めていくという点で大切。
- 相手が本当に欲しがっている薬、付加価値の高い医薬品の開発に取り組んでいけば、まだまだ将来性はあるのではないかと。
- ものづくり産業の競争力を強化するために必要な「品質面の確保」への支援が重要。流行の「インダストリアル4.0」「IoT」などを進めるうえでも、「生産技術の向上」を認識しないと、取組みの方向性を見失ってしまう。
- 県内にはものづくりなど沢山の産業があるのに、互いに違う産業のことを知らない。新しい産業が生まれる可能性につながるので、産業をつなぐ施策が必要。
- 中小・小規模企業の支援体制強化が位置づけられていることを評価する。中小企業の販路開拓・商品開発支援ファンドのうち2つが終了予定であり、継続を希望。
- トランプ政権になったことから、県内企業にも必ず影響が出てくるので、注視する必要がある。

<まちづくり、商業・サービス業振興等>

- 新たな政策として「商業」関係が弱い。新幹線開業効果がまだ及んでいない面もあり、「商業の活性化」「まちの賑わい」は大きな課題。定住人口の増加という観点から、Uターンサポート、企業の誘致、学生の確保などに積極的に取り組んでほしい。
- 富山駅周辺ではチェーン店が増える一方で、昔からの商店が後継者不足もあり廃業しており、富山の良さが失われている。どのように「まちの賑わい」を取り戻すか再検討することが必要。

<人材育成等>

- 力強い産業にしていくためには人材の確保が重要。そのためには、この企業で働きたいという魅力を発信することが大切。「富山に来たらカッコいい仕事ができる」と思えるような情報発信が必要。
- AIなどが進めば労働時間も激減するといわれている今こそ、基礎学力をしっかりと身に付けることが大切。
- 人材不足対応、また女性の活用のためにも、女性の教育が大切であり、教育に対する補助が必要。

（2）生産性・付加価値の高い農林水産業の振興

<担い手育成等>

- 農業の後継者の育成が最重要課題。若い人の「農業離れ」を止めるため、意欲ある若者の長期研修、外部研修への参加など、自立を促す取組みに支援してほしい。
- 漁業は自然が相手であり不安定だが、富山湾は魚種が豊富なためなんとか成り立ってい

る。最近ではクロマグロ規制などで、自主的に休業日を設けるなどして対応。

<高付加価値化、市場開拓等>

- グローバル化が進展するなか、「誰が、どのような作物を、どの程度作るのか」といった大きなスキームが必要。現在は「米・麦・大豆」を中心に、野菜の1億円産地づくりにも取り組み、成果も出てきているが、これからはさらなる品質向上が重要。
- 本県の農業はコメ中心であるが、海外市場での日本米の産地間競争も激しい。コメの輸出に当たっては、品質の向上、差別化が重要。
- 農業に限らず、生産性を向上させるには、域内・域外の交流を活発にしていく必要がある。輸出（域外交流）では、特に対EUとしてハサップ（HACCP）対応がポイントになり、これに対応する食品加工施設の整備も必要。
- 農林水産物の輸出という点では、①機械生産により安定的に生産することで勝負する、②数ではなく、ブランド力があって、付加価値が高く、他にはない品種で勝負するという2つのアクセスの仕方がある。

(3) 環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤の強化

<インフラの活用>

- 交通基盤は既に確立されており、これをどのように活用していくのかという視点が大切。
- 本県は多くの鉄軌道線が運行しており、乗継ぎの利便性という点で共通の交通ICカードの導入が不可欠。県が沿線自治体や交通事業者の橋渡し役になるべき。

(4) 観光振興と魅力あるまちづくり

<移住促進、選ばれ続ける観光地づくり>

- 移住に関心を持つ人が多い。新幹線開業により東京圏が通勤圏となった。交通基盤を活かして長期滞在型の産業観光への取組みを強化したらどうか。「富山に留学する」という視点で、富山で学び、世界で活躍する人材を広げ、「県民化」していくことが必要。
- 県内からの情報発信も大切だが、県外で富山の良さを伝えることも重要。例えば、東京から富山に2時間で行けることを知らない人も多く、日本橋とやま館でのPRなども効果的。
- 子どもたちが富山の魅力に接する・体験する機会を設けることで、県に愛着を持ち、県外への流出を食い止めることにつながるのでは。
- 観光資源、魅力は十分あるので、中長期的な視点で計画をたて、どう発信していくかを考えるべき。

<ブランド化、戦略的な国際観光の推進>

- 海外では、東京や大阪のイメージはあっても、地方の認識はまだ弱い。この時期に一步先に出て、積極的に「トヤマ」を海外に売り込むことで、例えば、「富山の魚は富山に来ればもっと安く、おいしく食べられる」と思ってもらうことで、インバウンドの取込みにつながっていくという良いサイクルが生まれるのではないかと。
- 大型クルーズ客船の受入については、北信越で連携し、共同で体制づくりや海外への発信を行うことが大切。
- インバウンド取込みの観点で、LCCの活用・誘致を進めるべき。また、クルーズ船の受入は、インセンティブをつぎ込んでも寄港してもらうことが大切。
- 「富山の魚」は目玉になる。特定の魚を英語・中国語で積極的に売り込むべき。
- 富山は「海のあるスイス」を目指しているが、本家スイスでは二次交通の充実、外国人移動時の優遇策など行っており学ぶところが多い。
- 映画・アニメの影響力は大きく、ロケ地誘致、フィルムコミッションの取組みをさらに進めるべき。

富山県総合計画審議会未来部会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年1月25日（水）13:30～15:30
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員10名、専門委員8名 計18名
- 4 主な意見

（1）結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり

<切れ目のない支援>

- マリッジサポートセンターなど、結婚支援の事業予算を増やす必要がある。
- 子どもを持つ人生を望む場合は、若年期からイメージを膨らませることが必要。キャリアを積んで気が付いた時には、高齢出産と言われる年齢に達していることがある。
- 子育て支援の優良事例が伝わっていないのではないかと。「企業子宝率」に基づく優良事例を表彰する取組みは良いが、零細事業者は実践するのが大変。
- 人口は全ての基本であり、他県では出産祝金、医療費・保育料軽減など手厚い支援で出生率を一気に上げた事例もあり、思い切った対策が必要。
- 家庭、地域を巻き込んだ子育て支援の実施には県と市町村との連携を密にするとともに、家庭・地域で子育て支援を行う既存団体の活動促進が重要。

<仕事と子育てを両立できる環境づくり>

- 依然として夫が外で働き、妻は家庭を守るという考え方が強く、男性が子育てに参加するのが普通という考え方へのマインドチェンジが大切。
- まだまだ父親が家事や家庭や子育てに関わることができる時間が少ない。ワークライフバランスのためのサポートの仕方を、意識の部分から醸成していくことが必要。
- 母親・父親が不安なとき、孤立しそうな時に支えるためには、産官学金の連携が重要。40代の母親の負担が一番重いという統計もあり、サポートが必要。
- 富山県は中小企業の割合が非常に多く、企業、上司の理解の中でも、仕事と子育ての両立支援制度を普及していくことが重要。

（2）真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上

<学校教育>

- 「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」とあるが、学校教育にウェイトが行き過ぎている。真の人間力のどのあたりを家庭が担うのかということも含め、連携を改めて見直す必要がある。
- 子どもの教育には、教師のみではなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーといった複数職種による支援が重要であり、配置の充実が求められる。
- 学校の先生、養護教諭も本当に忙しく、負担が増加。子どもが健やかな成長のために、長い時間を過ごす学校にもう少し人とお金をかけることが重要。

<子どもの可能性を伸ばす教育、生涯学習>

- 基本的な読み書きそろばんの考え方が大切。デジタルに頼り過ぎると自分の力で考える能力が身につかない。
- SNSなどのネット時代にあって、子ども達には長い文章を読解し、人に説明する力をつけさせることが今まで以上に重要。学力向上には新聞など活字を使った教育が有効。
- 「社会に学ぶ14歳の挑戦」は、コミュニケーションや、挨拶の仕方、人と協力することの重要性、責任感、充実感を得られる貴重な体験であり、継続してほしい。
- 生涯学習は、学習者の活躍の場の提供が必要。その意味で企業との連携も大切である。
- ふるさと学習は、活字だけではなく、地域、家庭、学校と企業という連携の形で、次世代に引き継ぐという観点からフェイストゥフェイスで繋がっていくことが大切。

(3) 文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進

<スポーツの振興>

- 競技力向上の取り組み成果は少しずつ出てきている。掲げている施策を継続・拡充していくことが大切。東京オリンピックは目標ではなく通過点と考えて記述を整理。
- 県内出身のトップアスリートが退いた後に、指導者として活躍できる場を県内で提供できれば、高いレベルでの指導ができ、選手の育成につながる。
- スポーツを楽しむ環境づくりについては、いかに運動していない人に興味を持ってもらい、運動を始めるきっかけをつくるかが大切である。
- 子ども、大人、高齢者まで、楽しめるような全天候型の新たな文化・スポーツ施設の建設を要望。

<文化の振興>

- 利賀のSCOTやとやま世界子ども舞台芸術祭は、県内よりもむしろ世界での知名度が高い。県内の一般の子どもの参加がまだ足りず、学校との連携が必要。
- 子どもたちが早いうちにアートに触れるワークショップなどの事業を全県的に行うことが大切。
- 富山県美術館では地元アーティストによるアートとデザインの新たな時代が始まることを期待。
- 高志の国文学館にある多数の収蔵品の利用を進めることが重要。同人誌会などの力を取り込むことも必要。

<県民活動の推進>

- ボランティア活動を行ううえで知っておくべきことに気付いたと参加者から好評だった「高校生のためのボランティア講座」がなくなったことは残念。
- これまで学校教育の中心はボランティア「体験」であったが、実際に「理解」するための授業が十分でない。
- 避難訓練はよく行われているが、自分の身を守った後に被災者をどう支援するかという部分が不足。若い世代ができることを避難訓練に盛り込むことが重要。
- 女性がリーダーとなるには、続く女性を引っ張っていくという意識を持つことが重要。20-30代の女性をいかに上の役職にあげるかという課題については、企業側努力も必要。

(4) ふるさとの魅力を活かした地域づくり

<景観づくり>

- 景観づくりには、県民が美しいと感じてもらうこと、現状が恥ずかしいものではないかを自ら考えてもらうことが重要である。
- 施策はたくさんメニュー化されているが、掲げた目標の実施体制、運用について、現時点でどのようなことが考えられるのかということをも是非盛り込んでほしい。

(5) その他全般

- 子どもだけでなく、今後高齢者になる大人にとっても明るい未来がないと年を取る意味が無い。私たちにとって、どんな未来が待ち受けているのかということをも、希望として計画に組み込むとよいのでは。

富山県総合計画審議会安心部会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年1月26日（木）13:00～15:00
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員12名、専門委員10名 計22名
- 4 主な意見

（1）いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一

＜医療関係者の養成・確保等＞

- 専門医制度が始まると、医師の診療科の偏在、地域偏在の加速化が懸念される。
- 若い医師の希望を聞き、無理にへき地に送ったり、特定の診療科に押し込んだりしないようにきめ細かい対応を。
- 医師の労働環境整備に取り組んでもらいたい。
- 医師不足解消のために、例えば子育て中の女性医師が活躍する環境を整えてほしい。
- 医師にとって一つの病院、一つの県だけで症例を研究するのは限界があり、若いうちに都会の病院で経験して戻るようなシステムづくりを行ってほしい。
- 看護師・助産師・保健師は質の確保も重要。新しい県立大学看護学部では、在宅看護、認知症看護の教育を充実させてほしい。訪問看護ステーションの機能強化や認定看護師の増加に向けて計画的な支援をお願いしたい。
- 医師と地域の保健師等との普段からのコミュニケーションづくりが必要。
- 在宅医療・介護の多職種連携には、栄養士を加えることが必要。

＜総合的ながん対策＞

- 病気になってからも患者が生き生きと暮らせることが大事。がんの初期段階からの緩和ケアにいかに取り組むか、そこに県の独自性を出せるのではないか。

＜健康寿命日本一を目指す総合対策の推進＞

- 口腔ケアを行うことで感染予防等につながり、健康寿命延伸につながる。
- 地域の人が集う公民館やスポーツクラブなどの機能改善や、地域交通ネットワークの充実も必要。空き家をシェルターや高齢者が集まるサロン、防災施設として活用しては、高齢者の見守りへのネット端末の活用を。

＜食の安全・食育＞

- 食生活改善には若者世代への働きかけが大切。高校・大学生を対象に出前授業ができないか。
- 食事の減塩には飲食店等も含め県全体での取組みにより、自然に減塩になっていることが必要。小さい頃からの食育推進のため栄養教諭の充実をお願いしたい。

（2）住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進

＜地域包括ケア・共生社会等＞

- ケアネット活動の普及は進んでいるが、その実態把握が必要。見守り・声掛けが中心で、ゴミ出しや除雪、買物代行など積極的な活動を行っている事例は少ない。また、意識の変化や個人情報保護で要援護者情報の一元化にも苦勞。住民が行いたい活動をうまく支援する仕組み・体制づくりが必要。橋渡し役を担う社会福祉士の活用も重要。

- 在宅医療・介護で薬剤師がもっと関わるべき。医薬品の選択や助言、健康相談から受診勧奨、かかりつけ薬剤師による服薬情報の一元的管理、24時間対応などが2025年までに薬局に求められている。
- 学校や地域の防災訓練の場に障害者を招き、障害者への声のかけ方などを学ぶ機会を。

<介護・福祉人材の確保>

- 定年を迎えた人の活躍の場として、介護予防も兼ねて介護現場での就労活用を。
- ハード面でのバリアフリーは充実したが、ソフトの面、心の面でのバリアフリーが課題でないか。そのため、児童生徒、地域住民、専門職のそれぞれに対する福祉教育の充実強化が重要であり、先進事例を普及させていく必要がある。

(3) 環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県」づくり

<循環型社会づくり>

- 県の指導で、より積極的に廃棄物を有効利用し減らしていく努力が必要。再生可能エネルギーでは、10年後の目標と、その先の未来を見据えた目標を設けては。
- 廃棄物を発生させない仕組みを作るため、現状の把握と周知が必要。県民へのインセンティブやコスト概念も踏まえ、県で大きな取組みを検討してほしい。

<豊かな自然環境の保全>

- 「立山・黒部」など、世界から来る観光客に県民の環境保護に対する取組みを紹介し、観光客も一緒に環境保全に取り組んでもらうことができないか。野生鳥獣対策は近隣県と情報交換のうえ広域的対応が重要。県産材で小学校を建設する森林の活性化の取組みを全国に発信してはどうか。
- 耕作放棄地について、水田の機能維持の観点から対策を。

(4) 災害に強く、「日本一安全・安心な県」づくり

<防犯・防災力>

- 犯罪防止の住民意識向上のため、県キャンペーンの今後一層の展開を期待。災害時における防犯対策の検討も必要。防犯カメラの設置について、小さな町内会も対象としてほしい。パトロール隊員の高齢化により後継者不足が課題となっている。
- 女性消防団も一人暮らし高齢者宅を訪問しているが、個人情報への壁があり、踏み込んだ指導ができない。大火の予防として、風の強い日など消防団員の巡回を強化し、日本一安心な県を目指してほしい。

<地域交通>

- 交通事業者は、事業の多角化やサービス業への参入による経営の安定化を。路線バス運転手の後継者育成支援が必要。域内交通では、主要生活交通ルートを選別や、商業施設など主要施設を回るルートを考える。域間交通では、接続ダイヤを考慮すべき。Wi-Fiの活用などインフラ整備も。

<消費生活の安全確保>

- それぞれのライフステージにおいて消費者教育を推進する仕組みづくりを。成人年齢引下げの可能性がある若者や、特殊詐欺に遭いやすい高齢者への取組みが必要。

富山県総合計画審議会青年委員会（第1回）の概要

- 1 日時 平成29年1月19日（木）10:00～11:30
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 20名
- 4 主な意見

（1）活力分野に関する意見

- 大都市圏などで県がレンタルオフィスを用意して、県内中小企業に貸し出せばビジネス展開がしやすいのではないか。
- 高岡の伝統工芸の各工場をめぐる見学ツアーを実施しているが、美大出身の若者などが興味を持ち参加したりしている。こういった産業観光は高岡のファンを増やし、後継者不足の解消にもつながるのではないか。
- 優秀な人に来てもらうには、会社の魅力を企業自ら引き上げることも必要だが、県としても県の魅力を高め、ブランディングして知名度を上げるなどバックアップが重要。
- 出産・育休後に復職後冷遇されたり、退職後の再雇用で単純作業となったり、ずっと活躍を続けるのが難しくなっている。社会の一員であることを感じられることが重要。
- 民泊について国で議論になっているが、ガイドラインや条例などしっかり整備してほしい。外国人のインバウンドに広がっていく可能性がある。
- 魚が美味しい富山県ということで漁港を観光地化したり、観光大使や富山県のPR曲を作って世界に発信するなどできないか。
- 今後個人の観光客が増加する中、「場所」を決めてそこを周遊する観光スタイルになることが考えられ、広域的な視点が必要。
- 富山きときと空港の整備は、海外との結びつきを維持する点でも今後も重要。
- 県内産の農作物が県外産より県内市場で安く価格がつくことがあり、生産者のモチベーション低下になる。市場の流通の機能を変えないと食のブランド展開が難しい。
- 空き家が増えており、そこに若い世帯が移住し農業を行うシステムがあれば農業人口減少に対応可能。
- 農業カレッジは、県内各所で活躍している人の話を聞いてネットワーク構築できたのがよかった。引き続き取組みを実施してほしい。
- コシヒカリを超える新品種にも期待するが、高アミロース米（パサパサしていて東南アジアで食されている）や低アミロース米（粘り気が強くもち米のよう）など他県が取り組んでいないものに挑戦してはどうか。

（2）未来分野に関する意見

- シングルマザーや共働き家庭にとっては、パートナー以外に頼れる場が必要。
- 若者にもっと知る機会を与え、多方面への興味・関心を与える教育が重要。
- ツアー企画をしているが、県内の人でも立山に登るのが初めてという人も多い。ふるさと学習や学校・地域の行事で組み入れれば、将来富山に戻るきっかけにもなる。
- 地元出身でない先生によるふるさと学習は話の広がりには限界があるので、地域の人材をもっとうまく使うなど工夫をするべき。
- 審議会議事録でも提案のあった、子どもから大人まで楽しめる全天候型の文化・スポーツ施設は、地域活性化の点からも重要ではないか。
- 富山の方はまじめで進学意欲が高いが、文化・スポーツなど他の科目以外に興味を持った人のバックアップが弱いと感じている。

- 移住促進を行っているが、地元だけでは事足りないことがあり、県の支援が必要。
- 国際交流において語学交流だけでなくスポーツを通じた交流なども連携して実施すべきではないか。
- 英語など単なる語学教育だけでなく多様な価値観、文化、多様性を学ぶのがグローバル教育。富山で生まれた外国人も多く、外国人＝「富山県民」として活かすべき。特別支援学校、ひきこもりの子など多様性を受け入れていく教育が重要。

(3) 安心分野に関する意見

- 介護分野は深刻な人手不足であり、小中学校やその保護者などに積極的に介護現場の生の声、魅力を伝えていくことが必要。
- 医療従事者（医師、看護師、介護職員）は量だけでなく質の確保も重要であり、若者の県外流出を防ぐことも必要。
- 在宅介護の受け皿は整っているが、それでも患者や家族が不安なため、急性期病院に在宅で看るべき患者が入ってきてしまう。県民意識を変えて在宅医療へのシフトが重要。
- 3人目の保育料は無料になっているが、所得制限があるため、所得増で負担が増える人がいる。3人目を育てるだけで社会貢献しているので所得に関わらず負担軽減すべき。
- 待機児童ゼロというがこれは親の希望を抜きにした数字。現実を見て引き続き取り組みを進めていってほしい。
- 高齢者の事故が増えているが高齢者も車を使わざるを得ない状況。コミュニティバスやタクシーを整備し、高齢者だけでなく子どもも含めて利用しやすいようにしてほしい。
- いざというときの判断ができるよう防災訓練は重要であるが、必要な人が参加していない。強制的にでも参加させるべき。

(4) 人づくりに関する意見

- 自己肯定感を上げる（海外 80%、日本 50%が自己肯定的）教育が重要。
- 高校生では進路設計を迫られるが、職業設計を具体的に考えられない。企業が高校に出向いて説明会を行うよう県で音頭をとってはどうか。
- ボランティア活動を身近なものとして思う人が少ない。小中学校のカリキュラムにボランティアを組み込んではどうか。
- 消防団に若い人が入ってこないと聞く。消防団は地域とのつながりであり、若者の自立のため、消防団を見ていただく機会をつくってはどうか。
- 県には起業未来塾というすばらしい仕組みがある。例えば成績上位者に 3000 万円与えるなど積極的なインセンティブを与えてはどうか。
- 起業未来塾の卒業生はサービス業が多いが、県の基幹産業であるバイオ、医薬品、製造業に誘導できないか。
- 若者・働き盛りの文化・スポーツに触れる機会が都会に比べて不足しており、機会を増やしていくことが必要。
- 女性の再就職が難しく、再就職できても非正規になっている友人が多い。企業も実際まだ躊躇している状況。県としても働き方改革を進めてほしい。
- 次世代法の計画と同様に、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画についても県条例で例えば 101 人以上の企業の策定義務を上乗せできないか（国は 301 人以上）。
- 会社を辞めてから農業を始める人も多く、農業カレッジで 65 歳以上のコースを作って教えれば「かがやき現役率」も向上するのではないか。